

## 星のソムリエが「六本木天文クラブ」2019年の見所を紹介!

**6/11**  
木星の衝<sup>しょう</sup>

「木星の衝」とは、木星の内側を回る地球が木星に追いつき、そして追い越していくちょうど境目の日を言います。6月11日は、地球から見て太陽と木星が正反対の位置に来る「木星の衝」となる特別な日。この頃から、観望会では木星を楽しめるようになります! 7月には「土星の衝」も。

**9/13**  
中秋の名月

中秋とは旧暦8月15日のこと。その夜の月を「名月」として愛でる風習は、人々と星空のつながりを感じさせてくれる伝統行事です。今年の名月は満月の1日前で真ん丸からは少し欠けていますが、ぜひ見上げてみてください。肉眼でもウサギの模様がよく見えますが、天体望遠鏡で観察すると明るさやリアルさに圧倒されます。



**7/7**  
七夕

織女星は、こと座のベガ。牽牛星は、わし座のアルタイル。どちらも1等星で街中でもすぐに見つけられます。空が暗いところでは2星の間に天の川も。梅雨の最中ですが晴れるように願いましょう。旧暦に基づく「伝統的七夕」は8月7日。

毎年夏のお楽しみ天文現象。流れ星のピークは、日本では残念ながらまだ日が出ている13日の16時頃。でも、ご安心あれ、ピークの前後数日はふだんよりも活発に流れ星が流れますので、12日から14日にかけて夜空を眺めてみると良いでしょう。月明かりに負けないで!

**8/13**  
ペルセウス座流星群



**12/14-15**  
ふたご座流星群

活動が活発でひと晩中観望できるなど、寒いことをのぞけば一年でもっともオススメの流星群です。今年は月明かりの影響もあって、たくさんの流れ星を見るのは難しいかも知れませんが、澄んだ冬の星空を長い尾をひいて流れていく、明るい流れ星との出会いに期待しましょう! 防寒の備えは万全に。

**12/26**  
部分日食

年の暮れに、今年2回目の部分日食が見られます。東京では午後2時30分ごろから日没の4時35分ごろまで観察ができ、一番大きく欠ける3時35分ごろには太陽の3割弱が月に隠されます。日食メガネの準備をお忘れなく。